

第365回山口西田読書会（2025年2月8日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「左右田博士に答ふ」五の第4段落313頁15行目から第4段落316頁1行目まで

2. キーワードないしキーセンテンス

「右の如き考から、判断といふのは特殊なるものが一般なる場所に於てあると云うこととなる、而して述語となって主語とならない超越的场所の立場からして、それは知るといふこととなる、之が知るといふことの根本義である。」(315, 8-10)

3. 考察及び問い

西田は、判断とは「特殊なるものが一般なる場所に於てある」とし、「超越的场所の立場」からみれば、それは「知る」ということだという。さらに西田によれば、「真の認識主観」は、「超越的场所」あるいは「すべてを包むもの」というようなものでなければならない。しかし、超越的场所の立場から「知る」ということを考えるとき、知っている気になっているだけではないか、という問いにはどのように応答するのか。「知る」ということにおいて、超越的场所と個物はどのように接しているのか。